

巻頭言 第53回 日本赤十字社医学会総会

第53回日本赤十字社医学会を終えて

日本赤十字社医学会 理事長
医療事業推進本部 本部長とみた ひろき
富田 博樹

今回の総会は東北ブロックが担当となり、総会会長を石巻赤十字病院の金田巖現名誉院長が務められ、石巻赤十字病院が事務局を引き受けて下さいました。石巻赤十字病院の職員方の周到な準備のおかげで、素晴らしい医学会が開催されました。メインテーマの「地域医療の『共創』～赤十字と地域が目指す医療のかたち～」を掲げ、参加者は2,019人に上り、876題の演題が発表討論され、充実した総会となりました。

特別講演の地元、石巻市出身の自然写真家高砂淳二氏による「夜の虹との出会い」と栗原市出身の株式会社ヴィジョナリージャパン代表鎌田洋氏による「～ディズニーの神様からの贈り物～『ありがとうの数だけ幸せになれる』」はいずれも、金田会長の期待に応える素晴らしい内容で、参加した聴衆にも大きな感動を与えていました。私も特別講話として、「日本赤十字社の歴史と活動」と題し、博愛社誕生から日本赤十字社の発足に始まり、赤十字病院の設立の歴史と災害救護における日本赤十字社の存在意義及び公的医療機関としての赤十字病院の役割等についてお話させていただきました。

シンポジウムの一つ目は、「地域医療の『共創』」と題し、地域医療魚沼学校長布施克也氏、倉敷中央病院地域連携・広報部長十河浩史氏及び原町赤十字病院副院長内田信之氏により、安全で安心できる地域を作るために医療者と受療者はどう向き合うべきかについて、幅広い意見交換が行われました。二つ目の、シンポジウム「災害医療」では、シンポジストに災害医療センター教育研修センター室長近藤久禎氏、山形県立中央病院副院長森野一真氏、日本赤十字社医療センター国内救護部長丸山嘉一氏を迎え、日本赤十字社救護・福祉部も加わり、昨年の熊本地震の経験から、災害救護団体としての存続をかけた取り組みとして、赤十字の国内救護 東日本大震災・熊本地震から見てきた本社・支部・施設の役割について徹底した討論が行われ、今後の赤十字災害医療体制の変革のスタートと位置づけられました。

金田大会長のご厚意で、3つの本社企画が実現致しました。救護・福祉部による「国際救援活動フォーラム」、医療事業推進本部/医療の質向上委員会による「医療の質の評価・医療の改善活動報告」全国大会、及び医療事業推進本部/医療の質向上委員会/チーム医療の推進に関する検討部会による「やって良かったチーム医療～経営の視点を踏まえて～」の3つのセッションです。さらに、日赤病院グループの診療科別分科会の発表討論の場を学会プログラムに組み入れていただけました。この分科会は日赤病院グループ内の診療科間の連携を強める目的で私が事業局長時代から推奨している取り組みであり、第49回（和歌山）から始めてこれで5回目となりました。

本総会が、総会参加者にとり赤十字病院グループとしての取り組みや本社の取り組みを確認することができ、さらに発展させる場としての役割が加わったことを、本部長・理事長として嬉しく思っております。

優れた演題が数多く、これらの中から優秀論文を選定することは困難でしたが、標記のとおり10題が選ばれ、本号に掲載されます。

最後にこのような素晴らしい医学会総会を開催運営して下さいました石巻赤十字病院金田巖名誉院長をはじめ職員の皆様に心から御礼申し上げます。